

Accuphase

PRECISION COMPACT DISC PLAYER

CDプレーヤー

DP-75V

取扱説明書

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO



ご使用の前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、出荷にいたるまで数多くの厳しいチェックを受け、その過程および結果が一台ごとの製品の履歴書として明細に記録され、社内に保管されております。このように完全な品質管理体制の中から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属のお客様カードに必要事項を記入の上、早くなるべく10日以内に返送ください。お客様カードと引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、当社品質保証部またはお求めの当社製品取扱店へ、直ちにご連絡ください。

尚、品質保証書につきましては日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

⚠マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

⚠ 警告： この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

⚠ 注意： この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

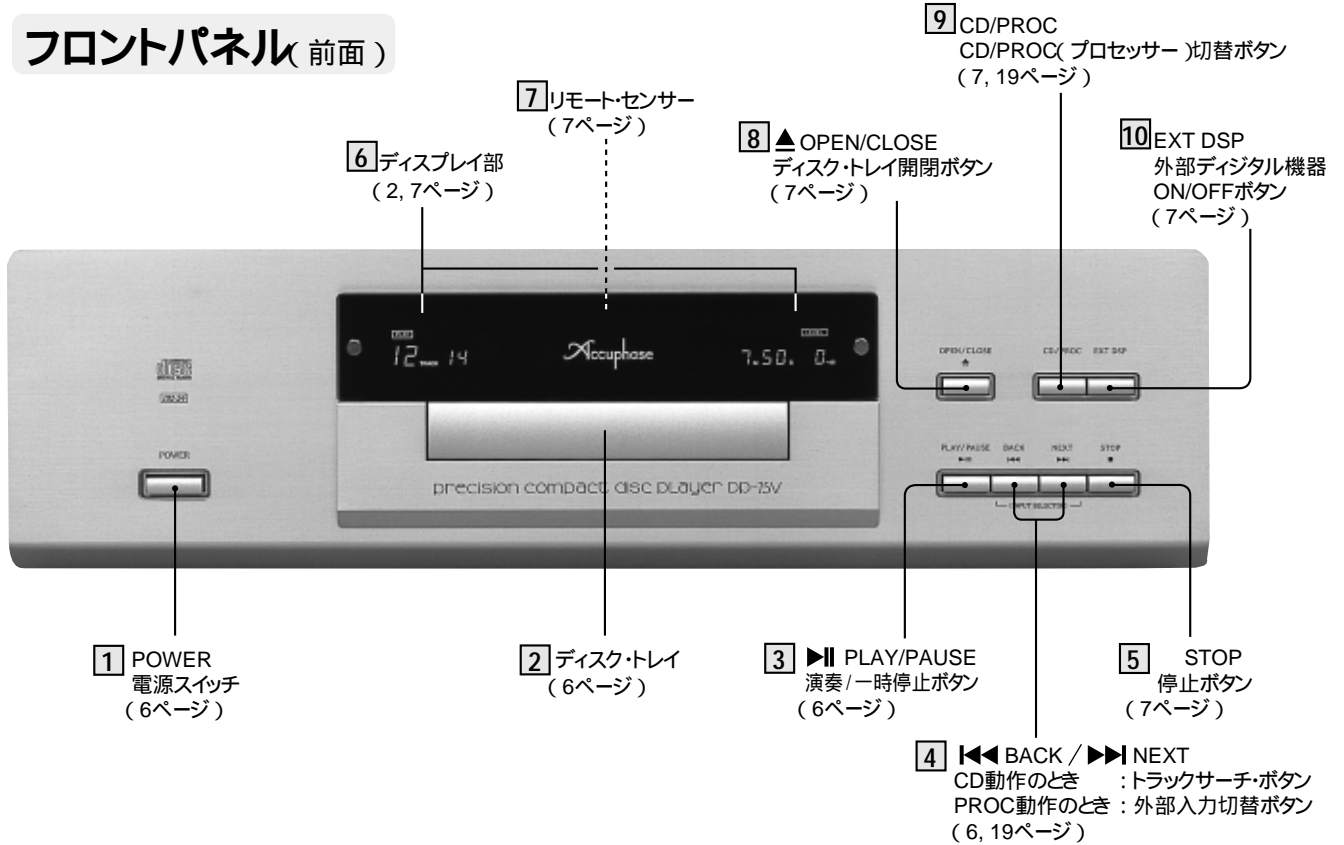
目次

1. 各部の名前	
フロントパネル、リアパネル	1
ディスプレイ部 / リモート・コマンダー	2
2. ⚠ 警告 安全上必ずお守りください	3
お使いになる前に / 付属品を確認します	3
3. ⚠ 注意	4
ディスクの取り扱い / お手入れ	4
4. 接続図	5
5. 各部の動作説明	6 ~ 10
6. ご使用方法	
通常のCDプレーヤーとして使用の場合	11
演奏の基本操作	11
ディスプレイ部の表示	12
途中で演奏を中止するには	13
指定のトラック(曲)からの演奏	13
演奏を直ちに開始させないとき	13
曲の途中から演奏を開始するには	13
リピート(繰り返し)演奏	14, 15
プログラム演奏	16, 17
タイマー演奏	18
デジタル・プロセッサとして使用の場合	19
入力のディスプレイ表示	19
CD、MD、DATなどをデジタル入力で再生	20
デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合	21
EXT DSPの使用: DG-28の接続例	22
7. リモート・コントロール	23
8. オプション・ボード	24 ~ 26
オプションの取り付け方法	26
9. 保証特性	27
10. 特性グラフ	28
11. ブロック・ダイアグラム	29
12. 故障かな?と思われるときは	30
13. アフターサービスについて	31

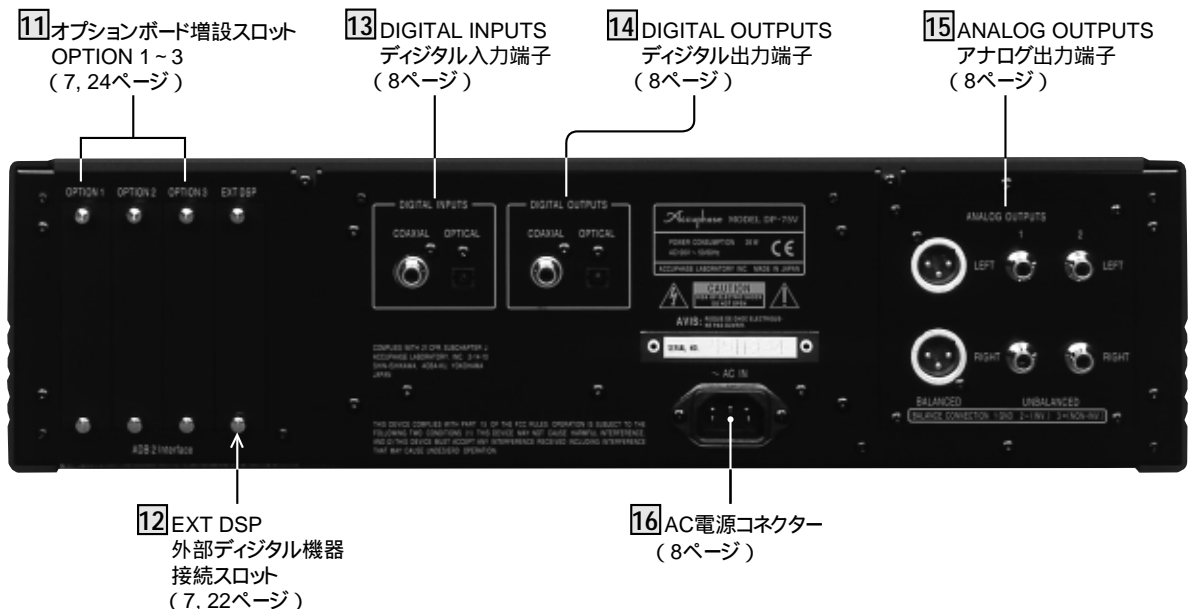
1. 各部の名前

詳しい説明は「各部の動作説明」ご使用方法（6～22ページ）を参照してください。

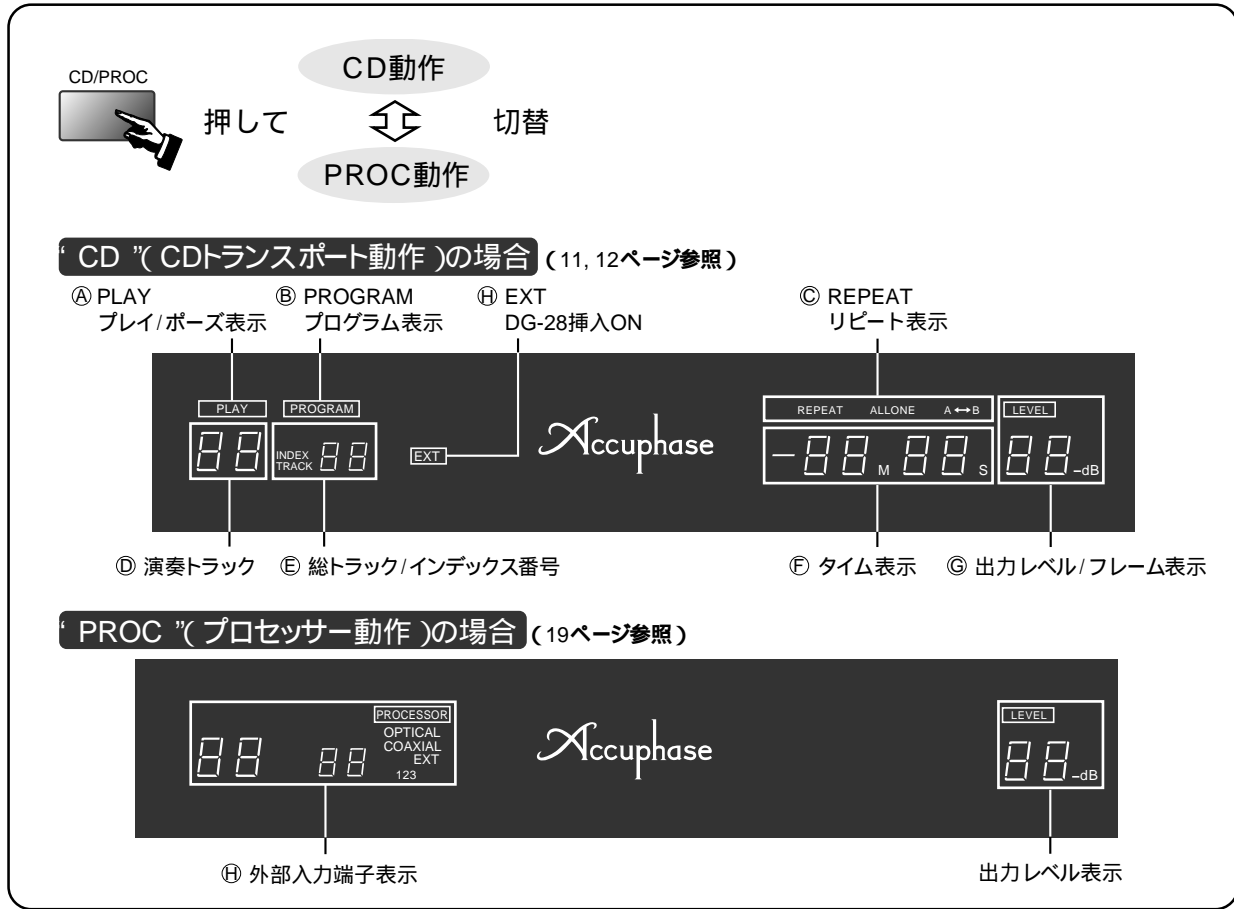
フロントパネル（前面）



リアパネル（後面）

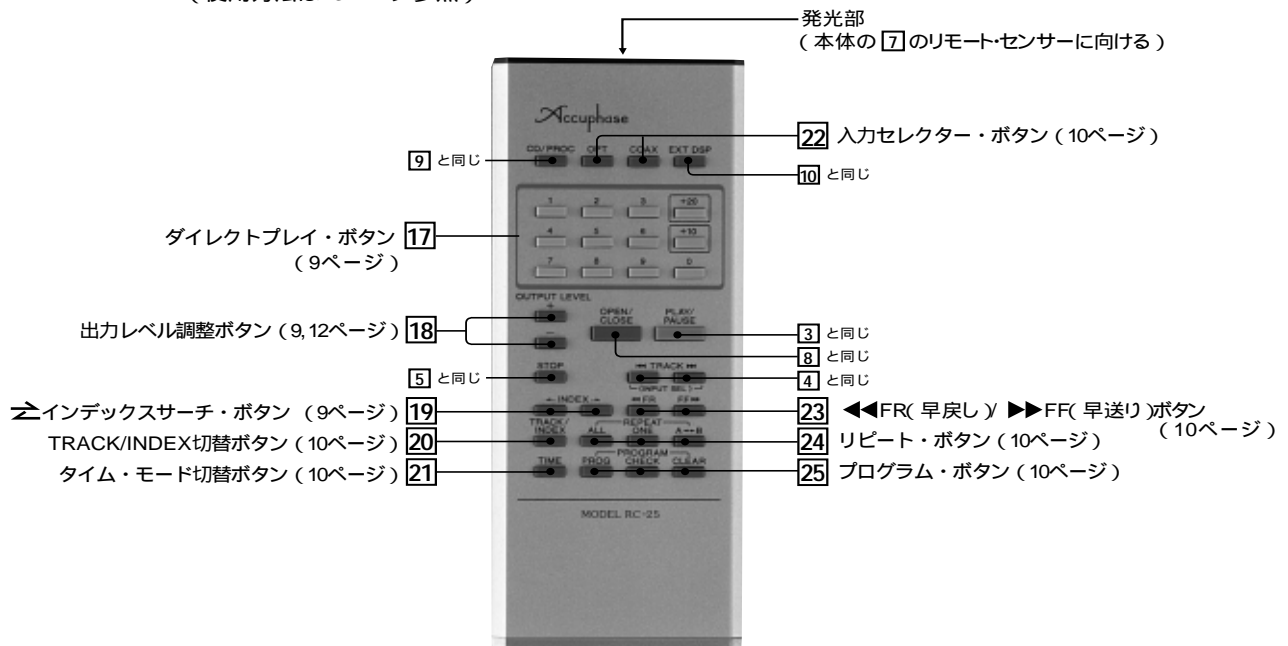


⑥ ディスプレイ部 (イラストは説明用ですので、実際の表示とは異なります)



リモート・コマンダー RC-25(付属)

(使用方法は23ページ参照)



2. 警告 安全上必ずお守りください

ご使用の前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

電源は必ずAC(交流)100Vをご使用ください。
AC100V以外(海外)では使用できません。
電源周波数は50/60Hzいずれの地域でも使用できます。

電源コードは取り扱いを誤ると危険です。

付属の電源コード以外は絶対に使用しないでください。火災、感電などの原因となります。

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。

長期間ご使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いておいてください。

電源スイッチのOFF直後(10秒以内)に再びONしないでください。

トップ・プレートや底板は絶対にはずさないでください。内部に手などで触れますと感電事故や故障の原因となり、大変危険です。

脚の交換は危険ですから行わないでください。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因となります。

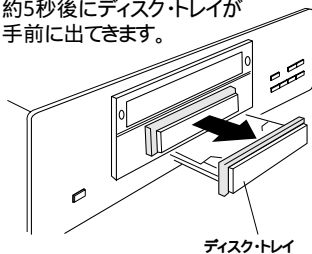
次の場合には、電源コードをコンセントから抜き、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

内部に水や薬品がかかった場合。
故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
内部に異物(ヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。

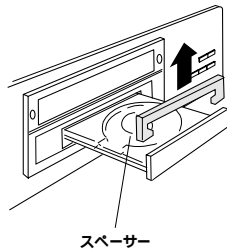
お使いになる前に

レーザー・ピックアップを含む光学部品は輸送時の衝撃から保護するためにロックされています。ご使用前にスペーサーを図のようにはずしてください。

電源スイッチを入れると、約5秒後にディスク・トレイが手前に出てきます。



スペーサーをはずします。



付属品を確認します

取扱説明書	1冊
安全上のご注意	1冊
お客様カード	1枚
AC電源コード(2m)	1本
プラグ付オーディオ・ケーブル(1m)	1組
単4形乾電池	2個
リモート・コマンダー RC-25	1個

オプション・ボードの選択

DP-75Vは一体型CDプレーヤーですが、CDトランスポートとハイサンプリング192kHz/24bitに対応したデジタル・プロセッサ部を完全に分離しました。そして外部デジタル機器を入力し、この独立した高性能プロセッサを活用できる、Digital Input端子及びオプション・スロットを装備しています。このため、本機はSACD、DVD-Audioなどの次世代フォーマットに対応している、ADB 2インターフェース規格のポートを装備しています。

ADB/ADB 2は、アキュフェーズ製品のオプション・ボード用インターフェース規格です。

ADB : Accuphase Digital Bus

従来の48kHzまでのサンプリング周波数に対応したインターフェース規格

ADB 2 : Accuphase Digital Bus 2

従来のサンプリング周波数に加えて、SACD/DVD-Audioなど48kHzを超えるハイサンプリング信号に対応したインターフェース規格

DC-300、DC-330、DG-28等に使用している、ADB/ADB 2規格のオプション・ボードはそのまま使用することができます。(ボードの種類は24ページ参照)

次のSACDや96kHzソフトなど、ハイサンプリング・ソースの再生/録音については、この『取扱説明書』をお読みの上、用途に応じて適切なオプション・ボードを選択してください。

SACDのデジタル再生

サンプリング周波数96kHzソフトの再生

ハイサンプリング・ソースをレコーダーで録音

DG-28を接続して、ハイサンプリング・ソースを再生

3. 注意

設置場所について

必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

通風が悪く、湿気やほこりの多い場所

直射日光の当たる所

暖房器具の近くなど温度の高い所

極端に寒い所

振動や傾斜のある不安定な場所

また、他の機器と直接重ねての使用は絶対に避けてください。

チューナーやテレビ、ビデオデッキから離して設置してください。

近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。

(特に室内アンテナの場合は注意。)

アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

光ファイバー(別売)の取り扱いについて

デジタル入出力に使用する光ファイバーは、中のコアに光信号が通ります。プラグの先端のよごれやキズ、レセプタクルの中の異物は大敵です。また、セットアップした後で光ファイバーの長さに余裕があるときは、セットの後ろで大きく丸く直径10cm以下にはしない)束ねておいてください。決して強く曲げたり、ご自分で切断、再加工をしないでください。

入出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実に行ってください

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

音量レベルについて

CDは、音楽信号に含まれるピーク成分も正確に再現します。したがって、ノイズを聴きながら音量レベルを合わせると、思わぬ大音量が出てスピーカーを破損することがあります。また、音量に対する注意書きがあるディスクは、ポリウムにご注意ください。

CD-ROMは使用できません

本機は、音声再生専用CDプレーヤーですので、CD-ROMは使用できません。誤まって使用しますとノイズを発生する場合があります。

本機のCDトランスポートでは、CD-RW、SACD、DVD-Audioのディスクは再生できません。

オプション・ボードを抜き差しする場合は、必ず電源を切ってください。

光学系ピックアップの結露について

冬期、暖房のきいた部屋の窓ガラス一面に水滴がついて曇ってしまう現象、これを結露といいます。CDプレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

ストーブなど、暖房器具をつけた直後

湿度が高く、湯気が立ち込めている部屋に置いてあるとき

冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき

結露してしまったら

結露すると、光学ピックアップがディスクのデジタル信号を読み取ることができず、プレーヤーが正しく動作しなかったりまったく作動しなくなります。

このような場合、ディスクを取り出して電源を入れておけば、約1時間ほどで露が取り除かれ、正常な作動をするようになります。

～ ディスクの取り扱いについて ～

直射日光が当たる場所や、高温多湿のところには置かないでください。

演奏終了後は、ホコリ、キズを避けるため、必ずケースに入れて保存してください。

レーベル面の反対側が信号読み取り面です。持つ場合には、信号面をさわらないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。

ディスクのお手入れの場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭いてください。

ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

お手入れ

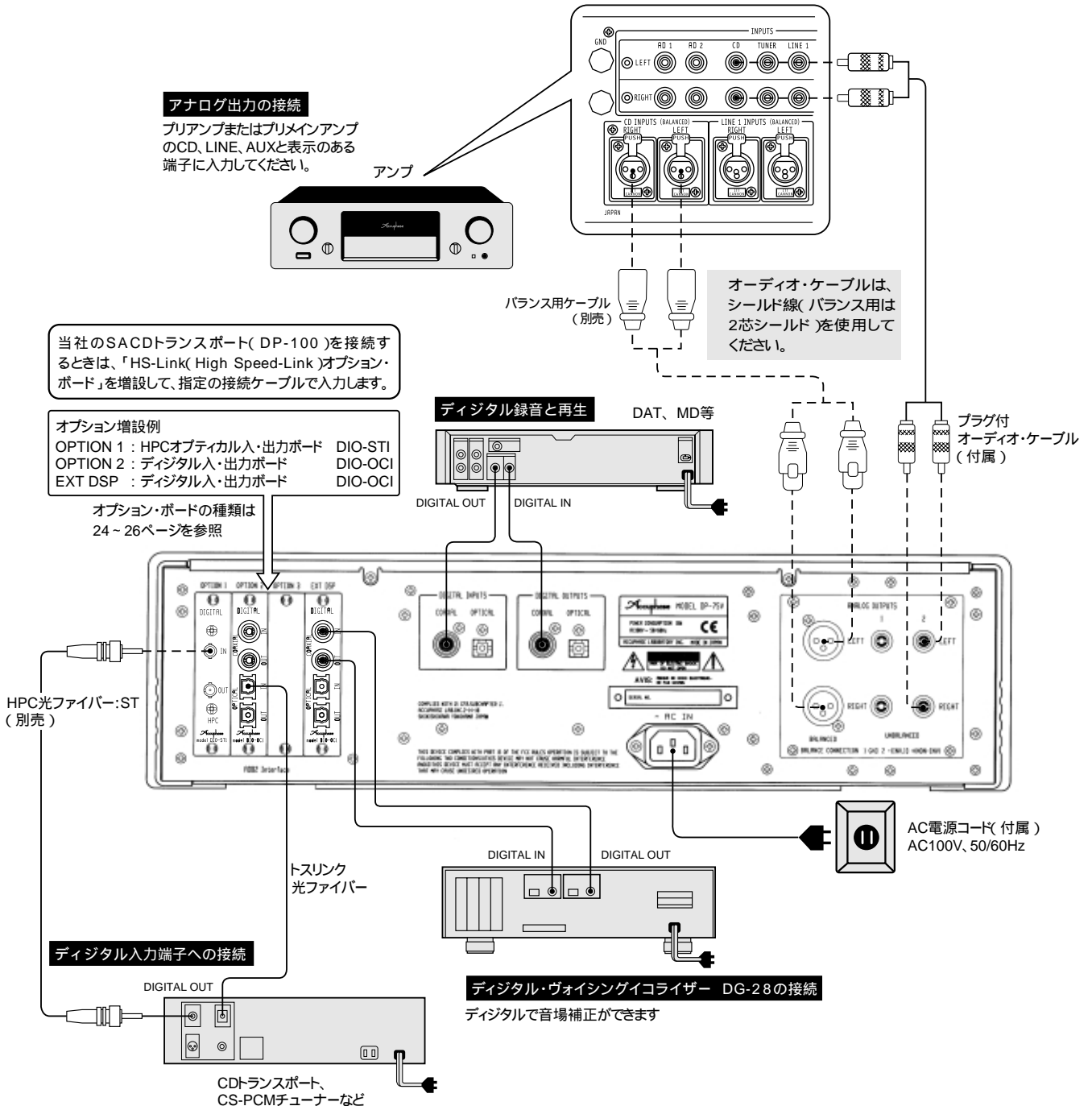
本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。

入出力端子などに接点保護剤などを使用しますと、樹脂部が経年変化で破損する場合がありますので使用しないでください。

4. 接続図

— イラストはオプションを増設した場合の接続例です —

注意 接続するときは、必ず各機器の電源を切ってください。
 デジタル機器との接続は、75 同軸ケーブル、トスリンク光ファイバー、HPC光ファイバーなどを使用します。
 アナログ入・出力の接続は、プラグ付オーディオケーブルを使用し、LEFT(左) RIGHT(右)を正しくつないでください。
 アナログ出力のバランス用とアンバランス用ケーブルは同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。



5. 各部の動作説明

1 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。

電源スイッチをOFFにすると、入力ポジション、OUTPUT LEVEL、残り時間表示などを除いて、それまでに設定された機能は解除されます。

2 ディスク・トレイ

▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと手前に出てきます。ディスクはレーベル面を上にして、テーブル面に水平に載せてください。8cmディスクは、内周の溝に合わせます。

ディスク・トレイ前面を軽く押すか、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンをもう一度押すか、▶▶ [PLAY/PAUSE] ボタンを押すと閉じます。

3 ▶▶ PLAY / PAUSE (演奏/一時停止) ボタン

演奏を開始するとき又演奏を一時停止するときに押します。

押すと [PLAY] インジケータが点灯して演奏を開始します。ディスクがトレイ上にあれば、自動的にトレイが開いて、最初のトラックから演奏を開始します。

演奏中に押すと [PLAY] が点滅に変わり一時停止状態になります。再度ボタンを押すと点灯に変わり、一時停止した位置から再び演奏が始まります。

PAUSE中に、ダイレクト・プレイボタンでトラック番号を指定した場合は、そのポジションから演奏を開始します。

PAUSE中に、トラックサーチボタンでトラック番号を変えた後、早戻し/早送りした場合は、そのポジションで一時停止したままです。

4 ◀◀ BACK / ▶▶ NEXT CD動作のとき : トラックサーチ・ボタン PROC動作のとき : 外部入力切替ボタン

⑨ CD/PROC切替ボタンを押して [CD動作] と [PROC動作] の切替をします。

CD動作の場合

本機のCDトランスポート動作となります。

◀◀ BACK トラックサーチ・ボタン

演奏中や一時停止の状態、1回押すとその曲の頭に戻ります。さらに押すと前の曲の頭に飛びます。

本体のボタンは、押し続けると ◀◀ FR (早戻し) 動作になります。

▶▶ NEXT トラックサーチ・ボタン

1回押すごとに次の曲の頭へ飛びます。

本体のボタンは、押し続けると ▶▶ FF (早送り) 動作になります。

サーチ中はディスプレイ部の F TIME インジケータは消え音もでません。

ディスクが入っている場合、E に表示されている最大トラックを超えることはありません。

ディスク・トレイが出ている場合は、このボタンで番号を指定して [PLAY/PAUSE] ボタンを押せば、指定したトラックから演奏を開始します。ただし、指定した数字が最終トラックを超えているときは、そのディスクの最後の曲を演奏します。

PROC動作の場合 (詳しくは19ページ参照)

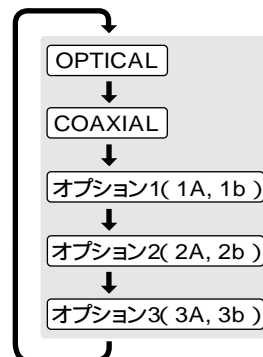
外部入力のプロセッサ動作となり、入力の切替をします。

◀◀ BACK ボタン

押すと入力が右図と逆方向に切替ります。

▶▶ NEXT ボタン

押すと入力が右図のように切替ります。



オプション1,2,3の表示は、オプション・ボードが挿入されていない場合はスキップします。

オプションの1A, 1b, 2A, 2b, 3A, 3bの表示のうち英文字は、「2入力」オプションボード(DIO-OC1等)が挿入してあるときに点灯します。

5 ■ STOP (停止) ボタン

演奏中や一時停止中にこのボタンを押すと演奏停止になります。

6 ディスプレイ部

CDトランスポート動作の場合:11, 12ページ参照
プロセッサー動作の場合:19ページ参照

7 リモート・センサー

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-25の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンダーを使用するときは発光部をここに向けてください。

8 ▲ OPEN/ CLOSE ボタン

押すと、ディスク・トレイが手前に出てきます。もう一度押すとトレイは中へ入ります。
ディスクが入っている場合には、全曲数と全演奏時間を表示します。

9 CD/PROC切替ボタン

押すたびに、CDトランスポート動作およびプロセッサー部の動作が切り替わります。ディスプレイ部の表示で確認します。

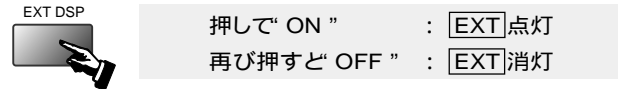


PROC動作のとき **4** ◀◀BACK/▶▶NEXT ボタンで、外部入力の切替をします。(6, 19ページ参照)

CDトランスポート演奏中にプロセッサー動作 (PROC) に切り替えると、CDトランスポート動作はSTOP状態になります。録音時は注意してください。

10 EXT DSP - 外部デジタル機器挿入ON/OFFボタン

リアパネルEXT DSPスロットのオプション・ボードに接続されている機器の信号をON/OFFします。



詳しい使用方法は22ページを参照。

注意

EXT DSPスロットのオプション・ボードに機器が接続されていないとき、このボタンを押してONにすると、アナログ出力は途切れます。

11 OPTION 1 ~ 3 - オプション・ボード増設スロット

デジタル入・出力関係のオプション・ボードを増設するスロットです。

用途に応じて空いている任意のスロットに、任意のボードを増設することができます。

ボードの種類は24ページ参照。

スロットは、ADB 2 Interface規格に対応しています。ADB 2またはADB規格のボードを増設することができます。

12 EXT DSP - 外部デジタル機器接続スロット

デジタル入・出力ボードを増設します。外部デジタル機器を接続して、この機器の信号をEXT DSPボタンでON/OFFすることができます。

当社のデジタル・グラフィック・イコライザーDG-28を接続すれば、内部はデジタル信号のまま、理想的な音場再生ができます。

*DG-28の接続方法は22ページ参照

13 DIGITAL INPUTS - デジタル入力端子

本機をデジタル・プロセッサとして使用する場合の入力端子です。

CDトランスポート、MD、CS-PCMチューナーなどのデジタル信号を、同軸ケーブルや光ファイバーなどで同時に入力することができます。デジタル信号は、左右チャンネルの音声や制御に必要な情報が一つの信号系で伝送する方式を採用していますから、伝送するときのケーブルは1本です。

OPTICAL: トスリンク光ファイバーで接続

COAXIAL: 75 同軸ケーブルで接続

14 DIGITAL OUTPUTS - デジタル出力端子

CD/PROC ボタンで選択した(現在演奏している)ソースのデジタル信号を出力します。

DAT、MD、CD-Rなどのデジタル入力端子と接続すると、デジタル録音(21ページ参照)が可能です。

15 ANALOG OUTPUTS - アナログ出力端子

アナログ出力は、アンプのCD、LINEまたはAUXの入力端子と接続します。

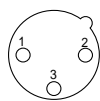
UNBALANCED 1、2 不平衡出力 ジャック

通常のピンプラグ付オーディオ・ケーブルでアナログ出力を取り出します。

BALANCED(平衡出力) コネクター

外来誘導雑音の排除能力に優れた、バランス伝送用出力コネクターです。アンプの入力コネクターがバランス入力を装備している場合には、良質なオーディオ信号の伝送が可能です。

ピンの極性は、次のようになっています。



:グラウンド

:インパート(-)

:ノンインパート(+)

出力レベルはリモート・コマンドのOUTPUT LEVELボタンでUNBALANCED出力ともに変換できます。

バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

16 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



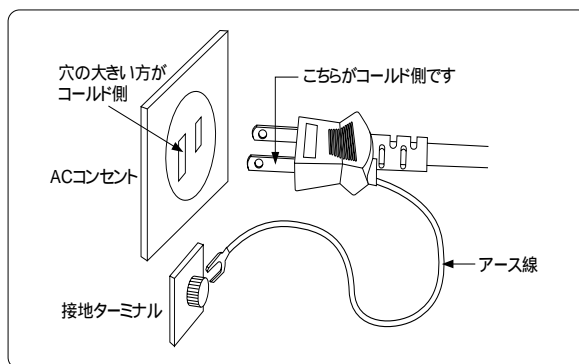
警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントをご使用ください。

電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全です。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



電源コードの極性について

室内のコンセントは大地に対して極性を持っています。機器とこの極性を合わせることで、音質的に良い結果が得られる場合があります。本機も電源の極性を合わせるように配慮し、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。なお、この極性は合わせなくても実用上問題になることはありません。

* 本機の電源ラインには高周波雑音を遮断するため、ラインフィルターが挿入されていますので、極性チェッカーで確認すると、極性が生じないか、または誤表示する場合があります。

* 室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側ですが、不明のときはチェッカーで確認をする必要があります。



警告

内部をあけると危険です。

電源が入らなくなった場合は、内部で異常が発生した可能性がありますので、必ず電源コードを抜いて、当社の品質保証部または当社製品取扱店へご連絡ください。

17 ダイレクトプレイ・ボタン

トラック(曲)の番号を直接指定して、演奏を開始させることができます。PAUSE中、STOP状態の時、演奏中であってもこのボタンが優先します。

[1] ~ [9] までのボタンを押すと、その番号から演奏を開始します。

[+10] と [+20] のボタンは10位の桁を、[0] ボタンは1位の桁を表します。

例:23番を演奏するには

[+10] ボタンを2回押してから [3] ボタンを押します。
または、 [+20] ボタンを押してから [3] ボタンを押します。

30番を演奏するには

[+10] ボタンを3回押してから [0] ボタンを押します。
または、 [+10]、 [+20]、 [0] ボタンを順に押します。

[+10] や [+20] ボタンを押すと、10位の桁が押した回数に比例してカウントアップしていき、1位の桁は-表示されます。1位の桁は5秒以内に指定しないと元に戻ってしまいます。演奏途中に [+10] や [+20] ボタンを押してから次のボタンを押すまでは、そのまま演奏が続きます。ディスクのトラック番号を超える数字が入力されたときは、そのディスクの最終トラックの演奏を開始します。

18 OUTPUT LEVEL - 出力レベル調整

アナログ出力には、デジタル方式の音量調整を採用しました。レベルは1dBステップで、0dB ~ -60dB間を可変できます。

19 INDEX- (インデックス・サーチ)ボタン

インデックスとは、1曲の中での音楽の区切りを示す記号です。

[INDEX] ボタンを使うと、曲の途中のインデックスから演奏を始めることができます。

インデックス・サーチは、[IN]・[DEX] の表示がついているディスクで有効です。

← BACK INDEXサーチ・ボタン

PLAYおよびPAUSE状態のときにこのボタンを1回押すと、前のインデックスの先頭に飛びます。続けて押すと順次、インデックスをカウントダウンします。そのトラック内のインデックス番号より前へ戻ることはありません。

→ NEXT INDEXサーチ・ボタン

このボタンは逆に、1回押すと次のインデックスの先頭に飛びます。続けて押すと順次、インデックスをカウントアップします。インデックス・サーチは、そのトラック内を飛び出すことはありません。存在するインデックス番号より大きい番号を指令すると検索後は、最終インデックスの頭に飛びます。

サーチ中はタイム・インジケータは消えます。また、音もでません。

インデックスをサーチすると、ディスプレイ部の E TRACK/IN DEXインジケータはインデックス番号表示に変わります。元の曲数表示(最終トラック番号表示)に戻すときは、

[TRACK/INDEX] ボタンを押してください。

20 TRACK/INDEXボタン

ディスプレイ部^E TRACK/INDEXインジケータの表示を切り替えます。

ボタンを押すごとに、トラック番号、インデックス番号を繰り返し表示します。

21 TIMEボタン

TIME切替ボタンは、ディスプレイ部^F タイム・インジケータの表示モードを切り替えるボタンです。

通常は曲中の経過時間を表示していますが、ボタンを1回押すごとに4種類の時間表示が循環します。(12ページ参照。)



22 入力セレクターボタン

リアパネルDIGITAL INPUTS端子に入力された信号を直接選択します。

OPT

OPTICALのトスリンク光端子に入力された信号を選択します。

COAX

COAXIALの同軸ケーブル端子に入力された信号を選択します。

23 ◀◀FR(早戻し)/▶▶FF(早送り)ボタン

PLAY(演奏)中およびPAUSE(一時停止)中に作動させることができます。ボタンを押し続けている間作動します。

PAUSE中は4倍の速さで早戻し、早送りができます。

◀◀FRボタンを押し続けて先頭に到達すると、PLAY(演奏)中は先頭で止まり、ボタンを離すと再びPLAY(演奏)を開始します。PAUSE中は、停止したままです。

▶▶FFボタンを押し続けて演奏が終了すると、自動的にPAUSE状態になります。

24 REPEAT(繰り返し演奏)ボタン

ALL(全曲)/ONE(1曲)/A ↔ B(指定区間)の繰り返し演奏が可能です。

詳しい使用方法は、14, 15ページ参照。

25 PROGRAM(プログラム)演奏ボタン

ディスクの中から聴きたい曲だけをピックアップして、好きな順序で演奏を楽しむための機能です。

詳しい使用方法は、16, 17ページ参照。

6. ご使用方法

⚠ 注意

～演奏の前に～

各ファンクション・ボタンの詳細は、『各部の動作説明』の項を参照してください。
POWERスイッチは、各機器が正しく接続されるまで入れないでください。また、アンプのボリュームは演奏と同時に大音量にならないように、下げておいてください。

通常のCDプレーヤーとして使用の場合

演奏の基本操作

POWERスイッチを押し、電源を入れます。

ディスプレイ部に「PROCESSOR」と表示されている場合には、**CD/PROC** ボタンを押してCDプレーヤー動作にします。

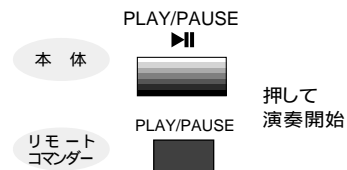
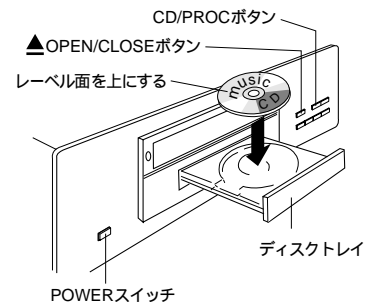
▲ **OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。

レーベル面を上にして、ディスクをテーブルにのせます。

▶▶ **PLAY/PAUSE** ボタンを押すとディスク・トレイが閉じて、第1曲目から演奏がはじまります。

最後の曲の演奏が終了すると、STOP状態になります。

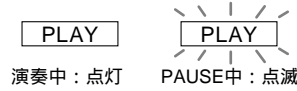
▲ **OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。ディスクを取り出したあと、ディスク・トレイは必ず閉じておいてください。



ディスプレイ部の表示

A [PLAY] インジケータ

演奏中は点灯、PAUSE中は点滅、STOP時は消灯します。



B [PROGRAM] インジケータ

プログラムをセットするときやプログラム演奏中に点灯します。

C REPEAT ALL、ONE、A↔Bインジケータ

リピート演奏時に点灯し、ALL(全曲)/ONE(1曲)/A↔B(指定区間)のいずれかであることを表示します。

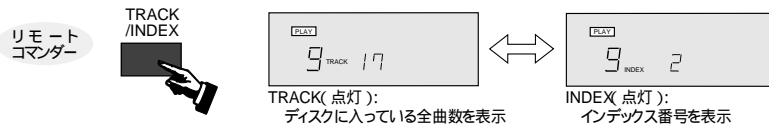
D 演奏トラック・インジケータ

演奏中、PAUSE中のトラック(曲)番号を表示します。

[TIME] ボタンを切り替えて全曲残量時間とトータル経過時間の表示のときは、このトラック表示は消えます。

E TRACK/INDEXインジケータ

[TRACK/INDEX] ボタンを押すと、表示が切り替わります。

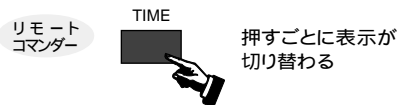


F タイム・インジケータ

ディスクが入ると全演奏時間を表示します。

演奏中は曲中の経過時間を表示します。

[TIME] ボタンを押すことにより、図のような表示を繰り返します。

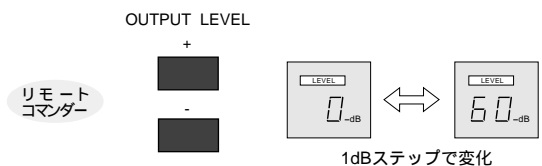


トータル経過時間の場合には、F に分(M)・秒(S)を、G にフレーム(1フレーム=1/75秒)が表示されます。残り時間を表示しているときは、数字の前に-記号が出ます。演奏が始まる前には経過時間がカウントダウンされますので、-記号が出る場合があります。



G 出力レベル/フレーム・インジケータ

[LEVEL] ボタンにより 出力レベルをデシベル(dB)で表示します。また、[TIME] ボタンでトータル経過時間を選択した場合には、[LEVEL] と -dB は消灯しフレーム表示となります。



途中で演奏を中止するには

一時停止は

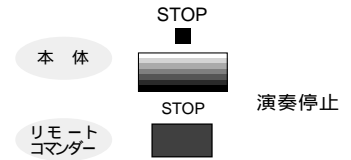
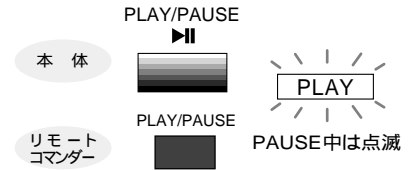
▶|| [PLAY/PAUSE] ボタンを押します。[PLAY] が点滅して演奏は停止します。一時停止を解除するときは再度 ▶|| [PLAY/PAUSE] ボタンを押してください。停止したところから演奏が始まります。

演奏を止めるには

[STOP] ボタンを押します。[STOP] ボタンを押した場合は、続きの演奏はできません。

ディスクを取り出すときは

演奏途中でも、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押します。

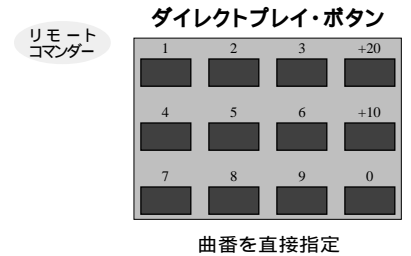


指定のトラック(曲)からの演奏

ダイレクトプレイ・ボタンを使うと、ポーズ(一時停止)状態やディスク・トレイが出ているときであっても、指定の曲から直ちに演奏を開始することができます。

トレイが出ているか、ストップ状態で、◀◀/▶▶ [トラックサーチ] ボタンを使って、任意の曲を選択し、▶|| [PLAY/PAUSE] ボタンを押します。

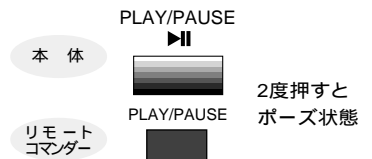
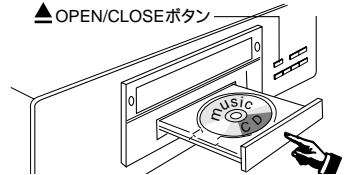
▶|| [PLAY/PAUSE] ボタンを押して、演奏が始まる前にトラックサーチ・ボタンを使うと、任意の曲の頭から演奏を開始することができます。



演奏を直ちに開始させないとき

ディスクを入れてからディスク・トレイ前面を軽く押すか、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと、トレイが閉じて合計曲数と総演奏時間をディスプレイして、次の指令があるまでスタンバイ状態になります。

ディスクを入れて▶|| [PLAY/PAUSE] ボタンを2度押すと、ディスク・トレイは閉じ、第1曲目の演奏開始待ち (PAUSE) の状態になります。

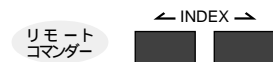


曲の途中から演奏を開始するには

◀ INDEX ▶ ボタンを使用すると、希望のインデックス番号から演奏を始めることができます。(9ページ参照。)

トラックサーチ・ボタンやダイレクトプレイ・ボタンでトラックを選択し、その後、◀◀FR/▶▶ FF ボタンで任意の場所から演奏を始めることができます。

PAUSE状態からトラックサーチと ◀◀FR/▶▶ FF ボタンで目的のトラックと分・秒を合わせて演奏を開始することができます。



フレーム(1/75秒)単位の頭出し

[TIME] ボタンの選択により、トータル経過時間を表示(フレーム表示)させ、PAUSE状態にします。

◀◀ FR/▶▶ FF ボタンにより、演奏開始フレームを指定します。この時は、頭出しに便利なように小音量で音がでます。

再度▶|| [PLAY/PAUSE] ボタンを押すと、音は消えて通常の一時的停止状態に戻ります。

更に▶|| [PLAY/PAUSE] ボタンを押すと、指定したフレームより演奏を開始します。

リピート(繰り返し)演奏

REPEATボタンを使い分けると、ディスク全曲/1曲/指定した特定部分の繰り返し演奏ができます。

リピート解除は、ボタンを再び押すかディスク・トレイを開けてください。

STOP ボタンでは解除できません。

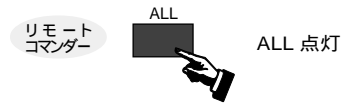
リピート演奏中でもトラックサーチ、インデックス・サーチ、早戻し・早送りなど、全ての動作が通常と変わることなく操作できます。

“ALL”と“ONE”、ディスクが入ってTOCを読めば指令をだすことができます。



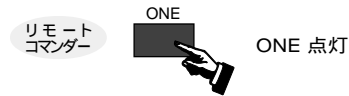
ディスク全曲の繰り返し演奏

ALL ボタンを押してください。全曲を繰り返し演奏します。



1曲だけの繰り返し

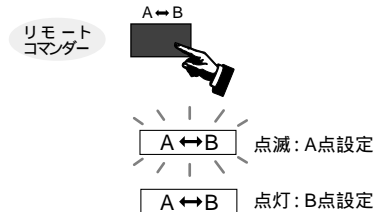
ONE ボタンを押します。押したときのトラックを繰り返し演奏します。トラックサーチ、早戻し・早送りなどで演奏しているトラックが変わったときは、そのトラックのリピートを行いません。



指定区間の繰り返し演奏

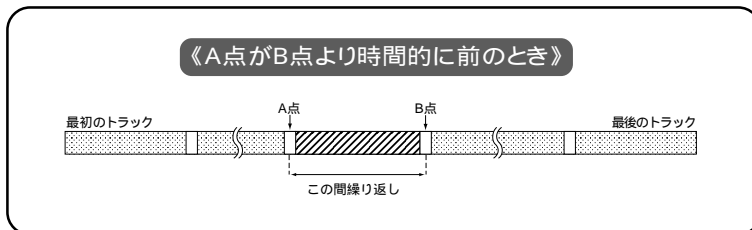
A↔B ボタンを使います。

- 演奏中に起点となるところ『A点』で **A↔B** ボタンを押す。
“A↔B”インジケーターが点滅してA点が設定。
- 折り返したいところ『B点』に到達したら、再度このボタンを押す。“A↔B”が常時点灯に変わって、演奏はA点に戻る。
- A～B間を繰り返し演奏する。



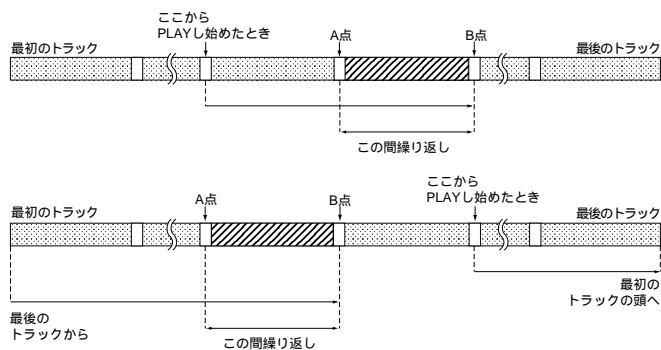
早送り・早戻し、トラック・サーチのボタンを使うと、手早くA点、B点を定めることができます。

PAUSE(一時停止)中にも設定可能です。



《指定区間外からPLAYしたときのREPEAT動作》

トラックサーチ、インデックス・サーチ、早戻し・早送りなどにより指定区間を飛び出した場合には、図の様に動作します。

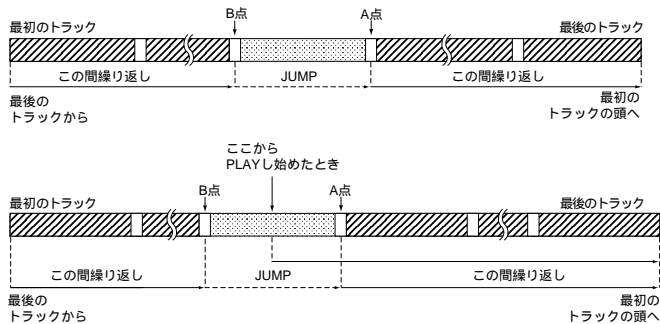


《特定の曲・区間をジャンプさせて演奏》

A点より手前にB点を設定すると、B～A間をジャンプした演奏が可能です。

まず、A点を設定したらトラックサーチや早戻しボタンを操作して、B点を手前に設定してください。A点から最後のトラックの演奏が終わると、今度は最初のトラックの頭から演奏が始まり、B点に到達すると直ちにA点へジャンプします。

《B点がA点より時間的に前のとき》



《フレーム単位での特殊な繰り返し演奏》

TIME ボタンでトータル経過時間を選択しフレーム単位まで表示させます。

▶▶ **PLAY/PAUSE** ボタンを押しポーズ状態にします。

◀◀ **FR/▶▶ FF** ボタンで、前項の様にA点、B点を設定すれば非常に短時間(フレーム単位)の繰り返し演奏ができます。

プログラム演奏

PROGRAMボタンを使うと、聴きたい曲だけを好きな順序で演奏を楽しむことができます。20曲までのプログラムが可能ですから、限度以内のディスクなら曲の演奏順序を変えて楽しんで、同一の曲を指定回数だけ繰り返し演奏させることも可能になります。

プログラムをするには(リモートコマンダーを使用します)

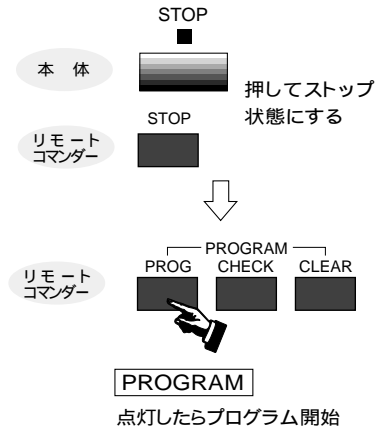
STOP ボタンを押します。

PROG ボタンを押すと PROGRAM が点灯してプログラム開始可能となります。

演奏中や一時停止中にプログラム演奏のセットはできません。

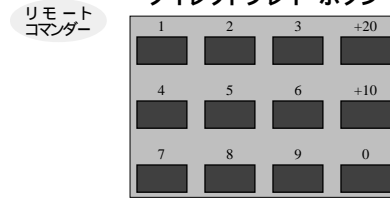
プログラム・モードを解除するには、再び PROG ボタンを押してください。

STOP ボタンでは解除できません。

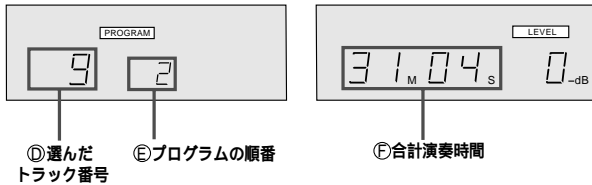


PROGRAM
点灯したらプログラム開始

ダイレクトプレイ・ボタン



押してトラック番号を順番に入力

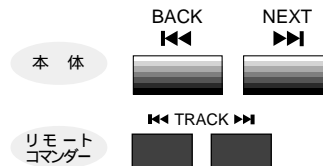


①選んだトラック番号
②プログラムの順番

③合計演奏時間

プログラムしたトラック番号を確認するには

トラックサーチ・ボタン ◀◀BACKと ▶▶NEXTを使用します。プログラムした順番で順次、表示させることができます。



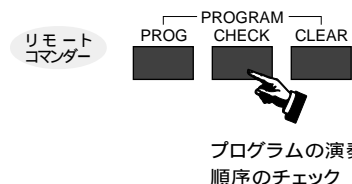
プログラムのセットが完了したら

▶|| PLAY/PAUSE ボタンを押して演奏開始です。

プログラム演奏中にプログラムの演奏順序や曲数がチェックできる

CHECK ボタンを1回押す度に、プログラムした第1曲目から順番に曲数がディスプレイされます。

そのまましておけば、2秒後に解除されて、ボタンが押される前の状態に復帰します。なお、チェック中は時間表示はありません。



プログラムの演奏
順序のチェック

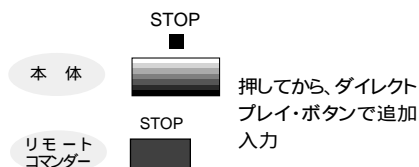
プログラム演奏中にTIMEボタンを押すと

通常は曲中の経過時間を表示していますが、**TIME** ボタンを1回押すごとにモードを繰り返し表示します。



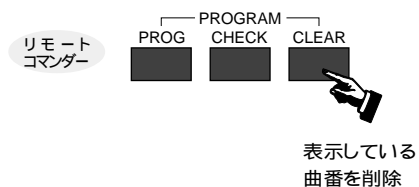
途中にプログラムを追加したいときは

STOP ボタンを押します。トラックサーチ・ボタンを使って追加したい場所をディスプレイさせて、**ダイレクトプレイ**・ボタンで入力します。表示されているトラック番号の次のところに追加入力されます。



入力したプログラムを一部削除したいときは

STOP ボタンを押します。トラックサーチ・ボタンを使って削除したい曲番を表示させて**CLEAR** ボタンを押します。
PLAY(演奏)中やPAUSE(一時停止)中にはできません。



セットしたプログラムをすべて削除したいときは

ディスク・トレイを開けるか、一旦電源を切ります。

プログラム演奏中のご注意

プログラム演奏中に**PROG** ボタンを押すと、演奏は続行されますがプログラム・モードは解除されて通常の演奏になります。

プログラム演奏中に**STOP** ボタンを押すと、演奏は停止しますが、プログラム・モードは解除されません。

プログラム演奏中に**◀◀BACK TRACK/▶▶NEXT TRACK** ボタンを用いれば、プログラム順序に従って、戻り/送りされ、希望のトラックの頭から演奏開始ができます。

プログラム演奏中に**ダイレクトプレイ**・ボタンは作動しません。

REPEAT(繰り返し)演奏は、プログラム演奏中やプログラム中であってもセット可能ですが、A ↔ B REPEATはできません。

プログラム演奏中においても**INDEX(インデックス)** ボタンを使用して演奏を楽しむことができます。

タイマー演奏

“ P-on ”設定すると、ディスクをセットしておけば電源が入ると自動的に演奏が始まります。市販のオーディオ・タイマーとの組み合わせにより、ご希望の時間に指定のトラック/インデックス番号より演奏を開始することができます。

出荷時は、“ P-oF ”に設定されています。

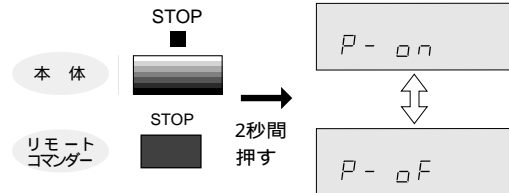
P-on 設定するには

[STOP] ボタンを約2秒間連続して押しつづけると表示部に [P-on] と表示されます。

再度 [STOP] ボタンを約2秒間押しつづけると、[P-oF] と表示され通常の使用状態になります。

このように、[STOP] ボタンにより [P-on] と [P-oF] が交互に設定されます。

ディスクが入ってなくても、この状態を設定することができます。



P-on 設定されたら

- 1 [P-on] 表示後、◀◀BACK/▶▶NEXT TRACK ボタンにより希望のトラック番号を指定します。
- 2 INDEX 番号は、INDEX サーチ・ボタンにより指定します。
- 3 ▶▶ [PLAY/PAUSE] ボタンを押して演奏を始めるか、または指定後電源をOFFにするとその番号が記憶されます。
- 4 次の電源スイッチ ON 時には、指定したトラック/インデックス番号の最初から演奏を開始します。

番号記憶後は、通常の操作方法により演奏をお楽しみください。

ダイレクトボタンからのトラック番号の指定は記憶されません。

番号指定をしないで電源 OFF にしますと、次の電源スイッチ ON 時には、1 番目のトラック/インデックスより演奏を始めます。

記憶されたトラック/インデックス番号は、新たに [P-on] 表示して指定するまで変更されません。

番号指定後ディスクを交換してもその番号より演奏します。但し、記憶された番号がそのディスクの総トラック/総インデックス数より大きい場合には、最後のトラック/インデックス番号より演奏します。

リピートの ALL と ONE は、電源 OFF 直前の状態が記憶されます。

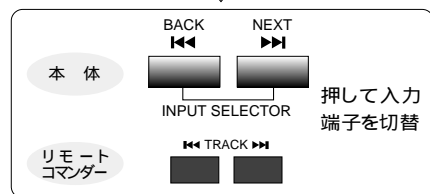
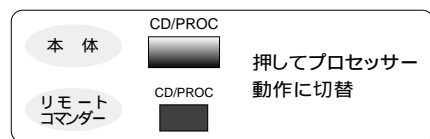
P-oF 設定にもどします

この表示にしますと通常の動作状態です。

電源 ON 時に、ディスクが入っていれば内容を読み込んで演奏待機状態になりますが、演奏は開始しません。

デジタル・プロセッサとして使用の場合

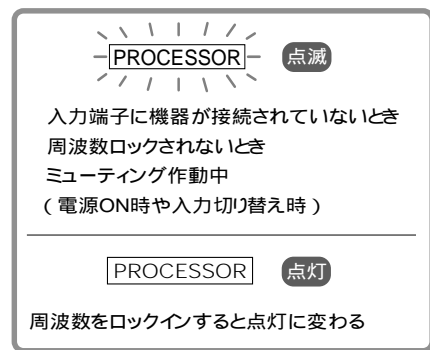
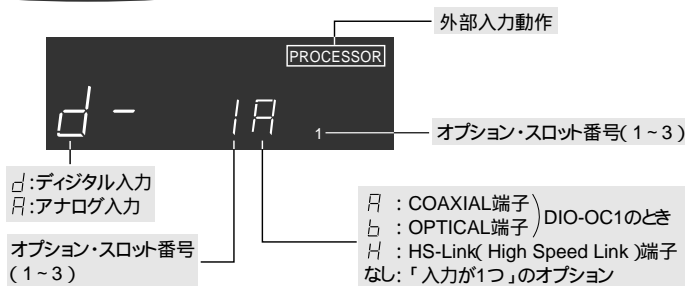
- 1 CDトランスポート、MD、CS-PCMチューナーなどのデジタル出力端子と本機のDIGITAL INPUTS端子またはオプションのINPUT端子を接続します。
- 2 各機器の電源を入れます。
- 3 **CD/PROC** ボタンを押して、プロセッサ動作にします。
- 4 **⏮BACK/▶▶NEXT** ボタンを押して、接続した外部入力機器の選択をします。周波数をロックインすれば、**PROCESSOR** が点滅から点灯に変わります。
- 5 外部入力機器の操作にて演奏をお楽しみください。



入力のディスプレイ表示

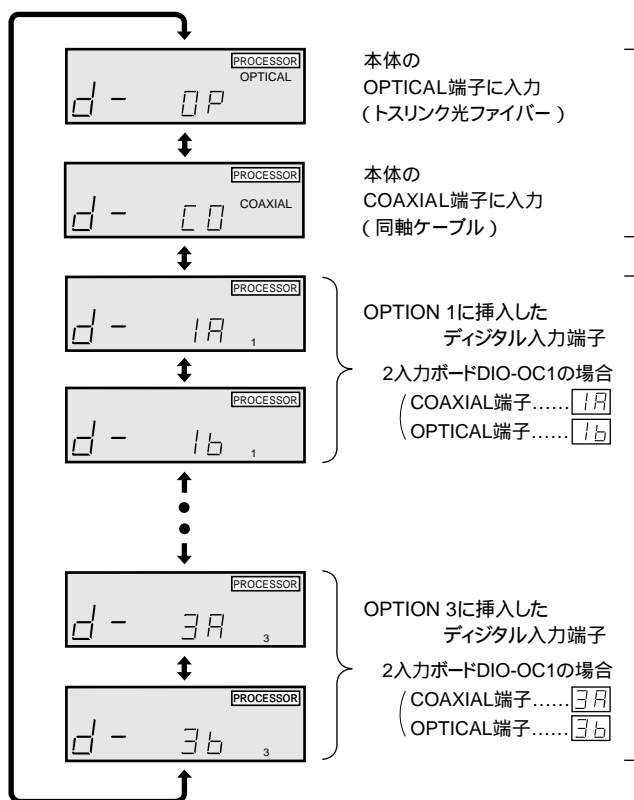
CD/PROC ボタンを押してプロセッサ動作を選択

オプション入力の表示例



⏮BACK/▶▶NEXT ボタンを押して入力端子を切り替える

表示例



オプション・スロット番号の表示:
オプション・ボードを挿入していない場合や出力専用ボードの時は、スキップされ表示されません。

「2スロット」使用するボード(DIO-PRO1)の場合
(OPTION 1, 2に挿入:スロット番号は「 2 」を表示
(OPTION 2, 3に挿入:スロット番号は「 3 」を表示

「入力が1つ」のオプションの場合には、
1A 1B 2A 2B 3A 3B の表示は
英文字が消えて、
1 2 3 の表示になります。

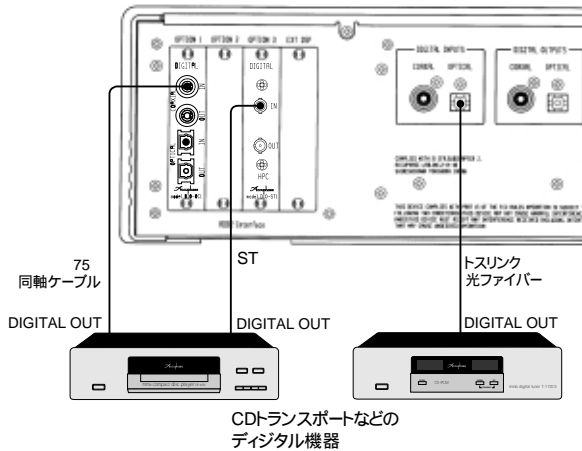
CD、MD、DATなどをデジタル入力で再生

CDトランスポート、MD、DAT、CS-PCMチューナーなどをデジタルで接続します。

接続例

OPTION 1 : DIO-OC1
OPTION 3 : DIO-ST1

DIGITAL INPUTSまたは
オプション・ボードのIN
↑↓
ソース側デジタル機器の
DIGITAL OUT



デジタル入力のあるオプション

デジタル入・出力ボード [DIO-OC1]
HPCコアキシャル入力ボード [DI-BNC1]
HPCオプティカル入・出力ボード [DIO-ST1]
AES/EBU入・出力ボード [DIO-PRO1]

当社SACDトランスポート(DP-100)の接続

「HS-Link(High Speed-Link)オプション・ボード」を増設し、指定のケーブルで入力します。

接続終了後は、次の手順で操作をしてください。

本機と共に入力機器、パワーアンプの電源を「ON」にします。

CD/PROC ボタンで、接続した入力端子を選択(表示)します。

入力機器を演奏状態にして、ボリュームを上げると演奏が聴こえてきます。

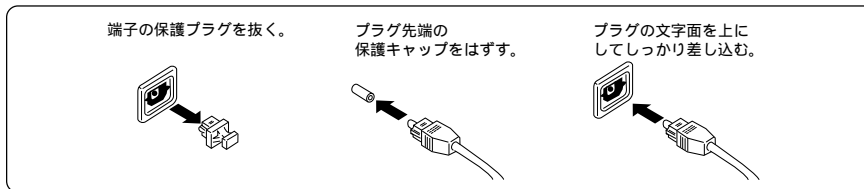
接続ケーブル

COAXIAL DIO-OC1

ピンプラグ付75 同軸ケーブル(別売:DL-15等)で接続してください。

OPTICAL DIO-OC1

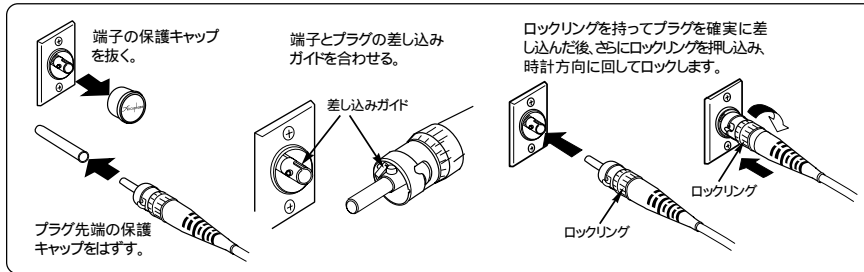
EIAJ規格のトスリンク光ファイバー接続用端子です。当社で、コアに石英ガラスを使用した光ファイバー(LG-10等)を別売しています。



HPC OPTICAL:ST DIO-ST1

STタイプのHPC光ファイバー(別売:HLG-10等)で接続してください。

STは、AT&T社の登録商標です。



HPC:BNC DI-BNC1

75 ΩのBNCコネクタ付同軸ケーブル(市販)で接続してください。

AES/EBU DIO-PRO1

AES/EBU規格に対応したXLRコネクタで接続してください。

当社で、HPCバランス・ケーブル(HLC-10等)を別売しています。

⚠注意

光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上)束ねておいてください。決して強く曲げないでください。もちろん、切断、再加工などはできません。

光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は、大敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。

光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行かない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

デジタル・レコ - ダ - で録音・再生をする場合

デジタル・レコーダーを接続して、録音・再生ができます。

再生系が1系統ですから、録音中のモニターはできません。

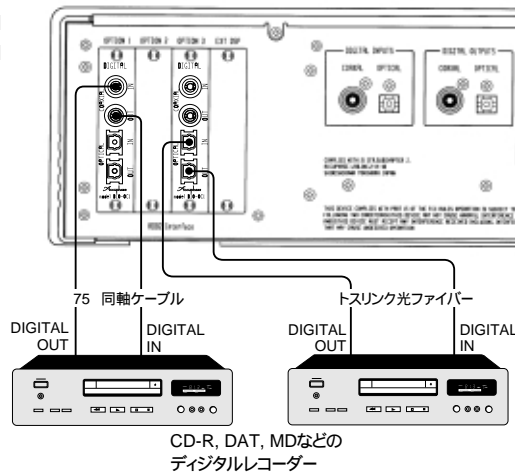
DIGITAL OUTPUTS端子や各オプションのOUTPUT端子には、**CD/PROC** ボタンで選択した(現在演奏している)ソースが出力され、録音可能になります。

注意 著作権保護のため、HS-Linkで入力したSACD/CD信号は、HS-Linkだけしかデジタル伝送できません。したがって増設したデジタル入・出力ボード(HS-Link以外)の各OUTPUT端子には、出力されず録音もできません。
DP-100のCDデジタル信号を録音する場合は、同軸端子からの信号を使用してください。

接続例

DIGITAL INPUTSや各オプション・ボードの IN 端子 レコーダーの DIGITAL OUT"
DIGITAL OUTPUTSや各オプション・ボードの OUT 端子 レコーダーの DIGITAL IN"

OPTION 1 : DIO-OC1
OPTION 3 : DIO-OC1



再生 : デジタル入力のあるオプション

HPCコアキシャル入力ボード [DI-BNC1]

録音・再生 : デジタル入・出力のあるオプション

デジタル入・出力ボード [DIO-OC1]

HPCオプティカル入・出力ボード [DIO-ST1]

AES/EBU入・出力ボード [DIO-PRO1]

再生: プレイバック

CD/PROC ボタンで、接続したソース(入力端子)に合わせ、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

録音: レコ - ディング

次の手順で操作をしてください。

録音したいプログラム・ソースを **CD/PROC** ボタンで選択し、スピーカーから音を出して確認します。

この信号が各OUTPUT端子からレコーダーへ出力されます。

デジタル録音は、レコーダー側で録音側のサンプリング周波数を設定(変換)します。

レコーダーの録音をスタートすれば、スピーカーから出ている音が録音されます。

各OUTPUT端子には、同一信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時に録音できます。

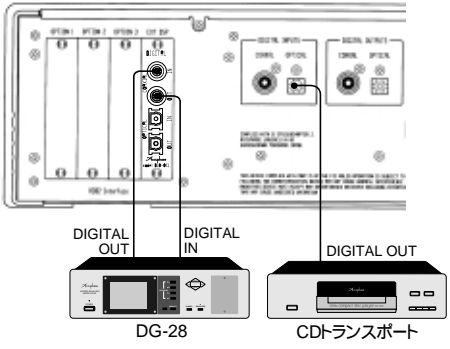
注意

- * デジタル録音の場合、SCMS(シリアルコピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のDATやMDにデジタルで録音することはできません。
- * デジタル デジタルでの録音の場合、ソース側とレコーダー側のサンプリング周波数のマッチングが重要です。基本的には、相互の周波数が合わないと録音できません。
サンプリング周波数96kHzのソースは、対応していないレコーダーでは録音できません。
MD、CD-Rへのデジタル録音は、サンプリング周波数が44.1kHzです。32kHzまたは48kHzのソースは、レコーダー側で44.1kHzに自動変換します。(一部の機種を除く)
DATは、ソース側の周波数に自動的に追従します。(一部の機種を除く)

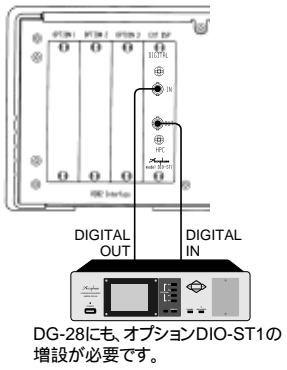
EXT DSPの使用: DG-28の接続例

リアパネルEXT DSPオプション・スロットにデジタル入・出力ボードを増設します。
 DG-28を接続後は、EXT DSPボタンで挿入をON/OFFすることができます。
 現在演奏中のソースの音場補正ができます。

接続例 1 外部機器 (CD) の音場補正
 EXT DSP: DIO-OC1



接続例 2 DP-75VのCDトランスポートの音場補正
 EXT DSP: DIO-ST1



デジタル入・出力のあるオプション

- デジタル入・出力ボード DIO-OC1
- HPCオプティカル入・出力ボード DIO-ST1

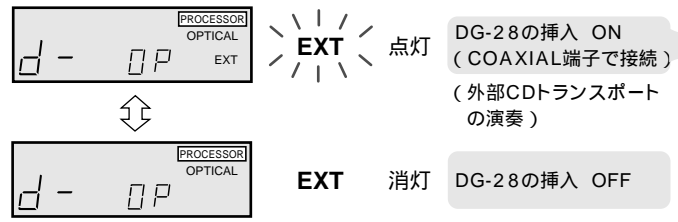
AES/EBU入・出力ボード (DIO-PRO1) は、「2スロット」使用します。このため左隣のOPTION 3が空いていなければ使用することができます。

注意

EXT DSP端子に機器が接続されていないとき、または信号をロックしないときは、EXT DSPボタンを押してONにするとアナログ出力は途切れます。

EXT DSP
 押すたびにDG-28挿入のON/OFFが切り替わる

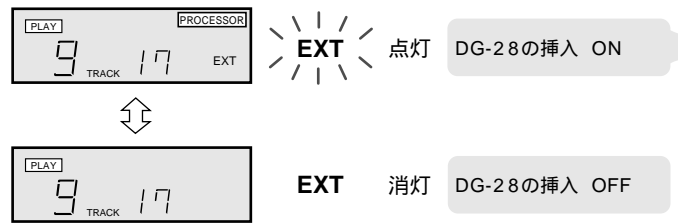
1 外部機器の音場補正の表示例 (DIO-OC1で接続)



注意

COAXIALとOPTICAL両方で接続した場合には、COAXIAL端子が優先します。
 両端子とも接続されていない場合、又はロックしない場合はPROCESSORが点滅します。

2 本機のCDトランスポートの音場補正の表示例 (DIO-ST1で接続例)



注意

DG-28が接続されていない場合、又はロックしない場合はPROCESSORが点滅します。

注意
 当社SACDトランスポート (DP-100) やハイサンプリング96kHzソースをDP-75Vに入力して、DG-28を接続する場合には、「DG-28用広帯域デジタル入・出力ボード: DIO2-DG1」が必要になります。詳しくは、DP-100の取扱説明書を参照してください。

7. リモート・コントロール

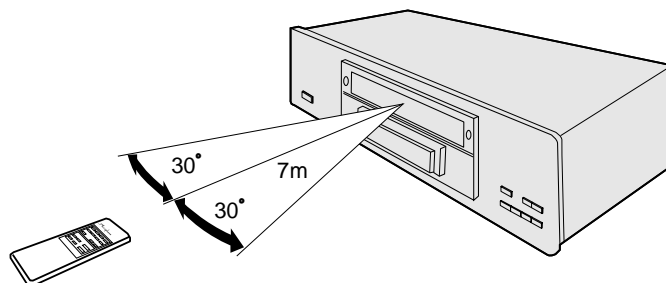
リモート・コマンダーRC 25

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-25を使うと、離れたところからDP-75Vの機能をコントロールすることができます。
(機能の詳細は2ページ参照。)

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の⑦リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。
直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



電池について

電池の交換時期

電池は普通に使って約8カ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

使用する電池は、単4形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。

⚠ 注意

乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。次の点に十分ご注意ください。

電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕(プラス)、⊖(マイナス)を正しく合わせてください。

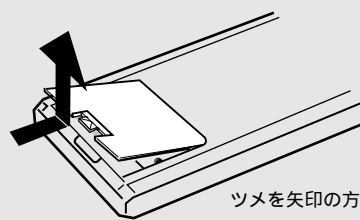
新しい電池と、1度使用したものを混ぜないようにしてください。

同じ形状でも、性能の異なるものがありますから、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないようにしてください。

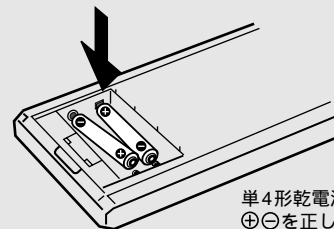
長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておいてください。

万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。

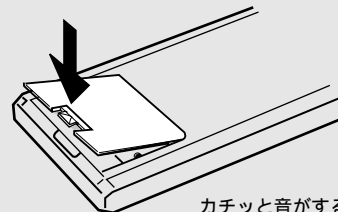
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押して蓋を開ける。



単4形乾電池2個、
⊕⊖を正しく入れる。



カチッと音がするまで閉める。

8. オプション・ボード

DP-75Vは一体型CDプレーヤーですが、デジタル・プロセッサ部が独立しています。そして、外部デジタル機器を入力し、192kHz/24bitに対応した高性能プロセッサを活用できる、DIGITAL INPUT端子及びオプション・スロットを装備しています。このため、本機はSACD、DVD-Audioなどの次世代フォーマットに対応できる、ADB2インターフェース規格のポートを装備しています。

このスロットにオプション・ボードを増設すれば、外部デジタル機器の接続が可能になります。豊富なオプションが用意されていますので、用途に応じて空いているスロットに増設してください。

空いている任意のスロットに、任意のオプション・ボードを増設することができます。

DC-300、DC-330、DG-28等に使用している、ADB/ADB 2規格のオプション・ボードはそのまま使用することができます。

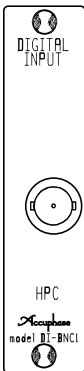
*表示価格は税別です。

オプション・ボードのサンプリング周波数対応状況

		最大48kHz	最大96kHz	
HPCコアキシャル入力ボード	DI-BNC1			
HPCオプティカル入・出力ボード	DIO-ST1			
デジタル入・出力ボード	DIO-OC1			
AES/EBU入・出力ボード	DIO-PRO1	IN		: 対応可
		OUT	x	x : 対応不可

HPCコアキシャル入力ボード DI-BNC1

標準価格 30,000円



75 のBNCコネクタ付同軸ケーブルを接続します。

内部は、オプティコアイソレーターによって入力と波形成形回路を完全分離しています。

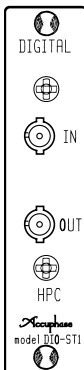
保証特性、適合規格

入力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠

デジタル入力 : 0.5Vp-p 75

HPCオプティカル入・出力ボード DIO-ST1

標準価格 50,000円



HPCオプティカル入・出力端子で、STタイプの光リンク・コネクタと接続します。
この端子は、HP社の150M BPS伝送能力を持つ超高速リンクを使用しています。

*STは、AT&T社の登録商標です。

*HPC光ファイバー(HLG-10等)は、当社で別売しています。

保証特性、適合規格

フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠

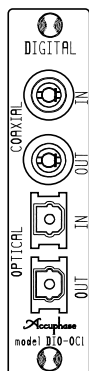
コネクタ形状 : STタイプ

入力レベル : 光入力 -30 ~ -10dBm

出力レベル : 光入力 -19 ~ -14dBm

デジタル入・出力ボード DIO-OC1

標準価格 40,000円



同軸、光ファイバーの入・出力端子を装備、2系統の入力と2系統の出力を接続することができます。

接続 “ IN ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL OUT ”
 “ OUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL IN ”

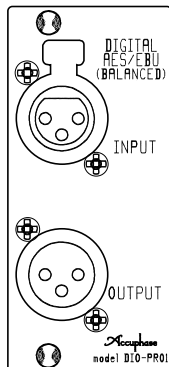
COAXIAL : 75 同軸ケーブルで接続
 OPTICAL : トスリンク光ファイバーで接続

保証特性、適合規格

入力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠
 デジタル入・出力 : COAXIAL 0.5Vp-p 75
 OPTICAL 光入力 -27 ~ -15dBm
 光出力 -21 ~ -15dBm

AES/EBU入・出力ボード DIO-PRO1

標準価格 60,000円



AES/EBU(業務用デジタル規格)に対応した、入・出力XLRコネクタを装備しています。この規格のコネクタを装備しているデジタル機器の入力やデジタル・レコーダーを接続、録音・再生することができます。

接続 “ INPUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL OUT ”
 “ OUTPUT ”端子 デジタル機器の“ DIGITAL IN ”

*HPCバランス・ケーブル(HLC-10等)は、当社で別売しています。

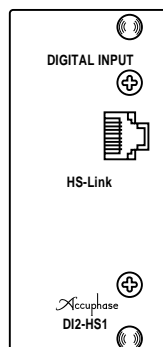
保証性能、適合規格

入出力フォーマット : EIAJ CP-1201に準拠
 デジタル入力 : 0.5V p-p min 250
 デジタル出力 : 3.0V p-p 110

HS-Link入力ボード D12-HS1

D12-HS1

標準価格 100,000円



HS-Linkコネクタを装備、HS-Linkインターフェースでデジタル信号を伝送する入力ボードです。

DP-100を接続して、SACD/CDを演奏する場合に増設します。
 HS-Linkケーブル(HDL-15)は、DP-100に付属しています。

オプションの取り付け方法

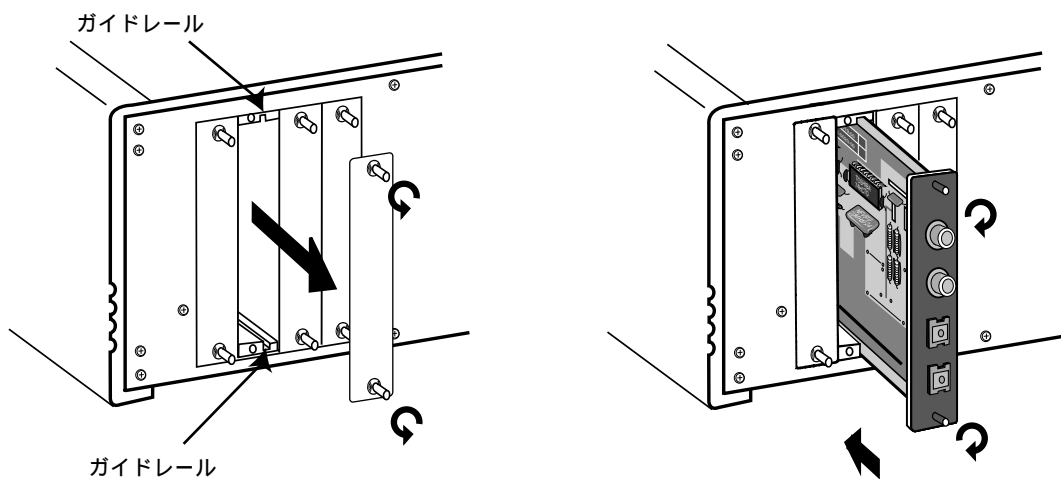
本体の電源スイッチをOFFにします。

リアパネルのオプション用スロットのサブパネルをはずします。

2スロット使用するボードの場合は、2枚はずします。

スロット内の上下のガイドレールに沿って、オプション・ボードを挿入します。コネクタに当たって止まったら、少し力を入れてコネクタを完全に差し込みます。(パネル面が同一になればOKです。)

上下のネジ2カ所で確実に固定します。



⚠ 注意

オプションを抜き差しするときは、必ずDP-75Vの電源を切ってから行なってください。電源を入れたまま抜き差ししますと、故障の原因となります。

部品面やハンダ面、コネクタの接点部分を手で触らないでください。静電気で回路が故障する原因となります。ボードを持つ場合にはプリント板の外周やパネル部を持ってください。

オプションの取り付けネジ(2カ所)は手で完全に締めてください。締めつけが不十分ですと、端子がグラウンドから浮いて接触不良となり、故障の原因となります。

9. 保証特性

[保証特性はEIA測定法CP-2402に準ずる]

[測定用ディスク:CP-2403]

[プレーヤー部]

フォーマット

CD標準フォーマット

量子化数 : 16ビット
 サンプリング周波数: 44.1kHz
 エラー訂正方式 : CIRC
 チャンネル数 : 2チャンネル
 回転数 : 500~200rpm (CLV)
 線速度 : 1.2~1.4m/s一定

読み取り方式

非接触光学式読み取り(半導体レーザー使用)

レーザー

GaAlAs(ダブルヘテロ・ダイオード)

[デジタル・プロセッサ部]

入力フォーマット

EIAJ CP-1201に準拠

量子化数 : 16~24ビット直線
 サンプリング周波数: 32kHz, 44.1kHz, 48kHz
 (自動検出) 88.2kHz, 96kHz
 176.4kHz, 192kHz, 2.8224MHz
 [オプション・ボード対応による]

デジタル入力フォーマット・レベル(EIAJ CP 1201)

フォーマット : DIGITAL AUDIO INTERFACE
 OPTICAL : 光入力 -27~-15dBm
 COAXIAL : 0.5Vp-p 75
 [オプション・ボード対応による]

デジタル出力フォーマット・レベル(EIAJ CP 1201)

フォーマット : DIGITAL AUDIO INTERFACE
 OPTICAL : 光入力 -21~-15dBm
 発光波長: 660nm
 COAXIAL : 0.5Vp-p 75
 [オプション・ボード対応による]

周波数特性

0.5~50,000Hz +0, -3dB

D/Aコンバーター

MDS方式 24ビット
 デジタル・ディエンファシス機能

全高調波ひずみ率

0.0008%(20~20,000Hz間)

S/N

116dB

ダイナミックレンジ

112dB

チャンネル・セパレーション

108dB

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED : 2.5V 50Ω 平衡 XLRタイプ
 UNBALANCED : 2.5V 50Ω RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0~-60dB間 1dBステップ(デジタル方式)

電源・消費電力

AC100V 50/60Hz 26W

最大外形寸法・質量

幅475mm×高さ150mm×奥行397mm
 19.8kg

付属リモート・コマンダー RC 25

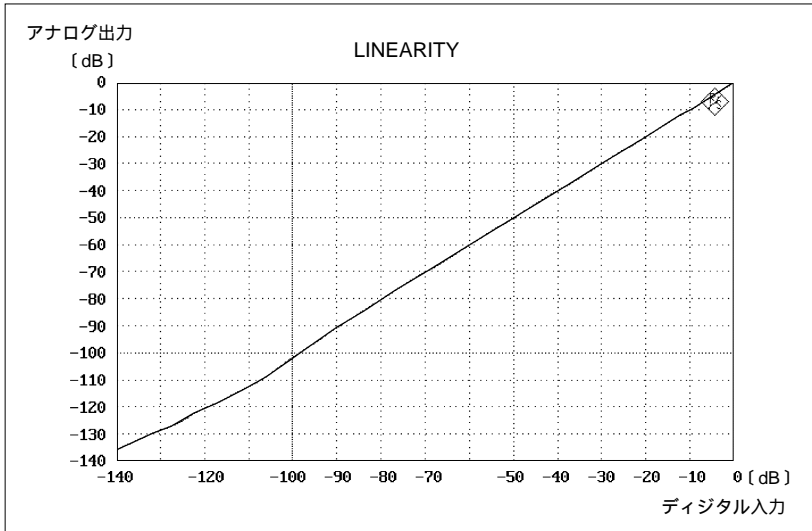
リモコン方式:赤外線パルス方式
 電源:DC 3V 乾電池:単4形2個使用
 最大外形寸法:66mm×175mm×20mm
 質量:225g(電池含む)

本機の特長および外観は、改善のため予告なく変更することがあります。

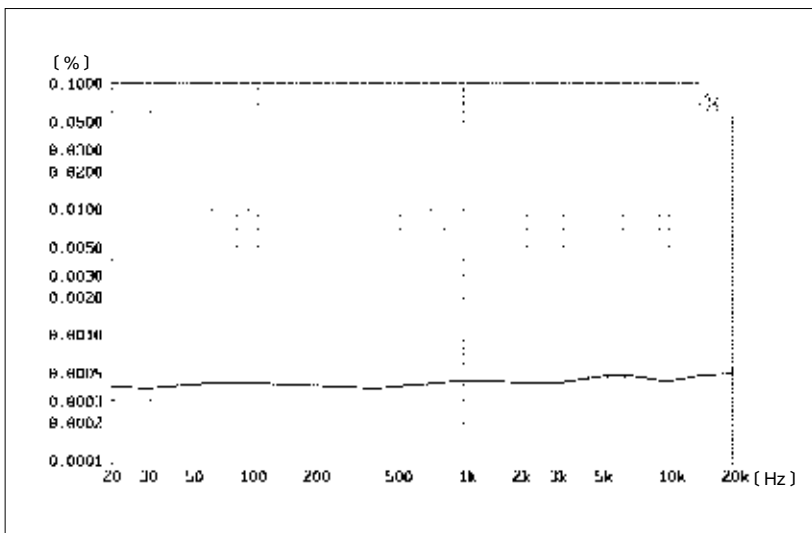
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

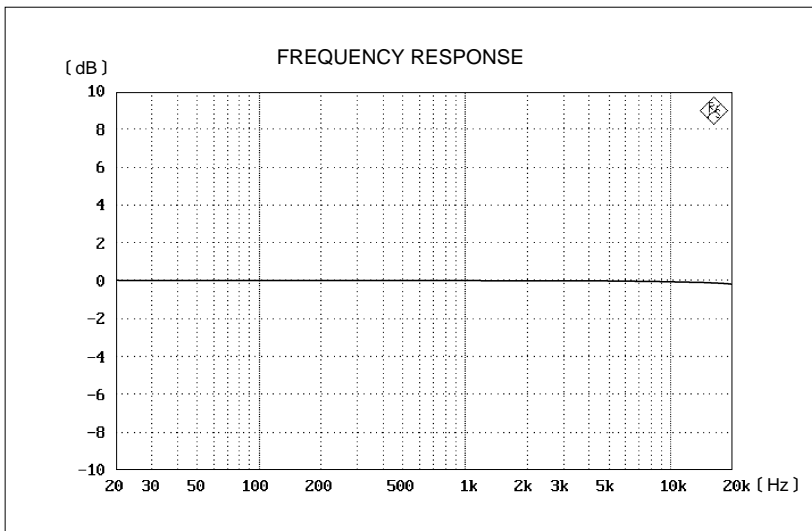
10. 特性グラフ



リニアリティ(デジタル入力 / アナログ出力)

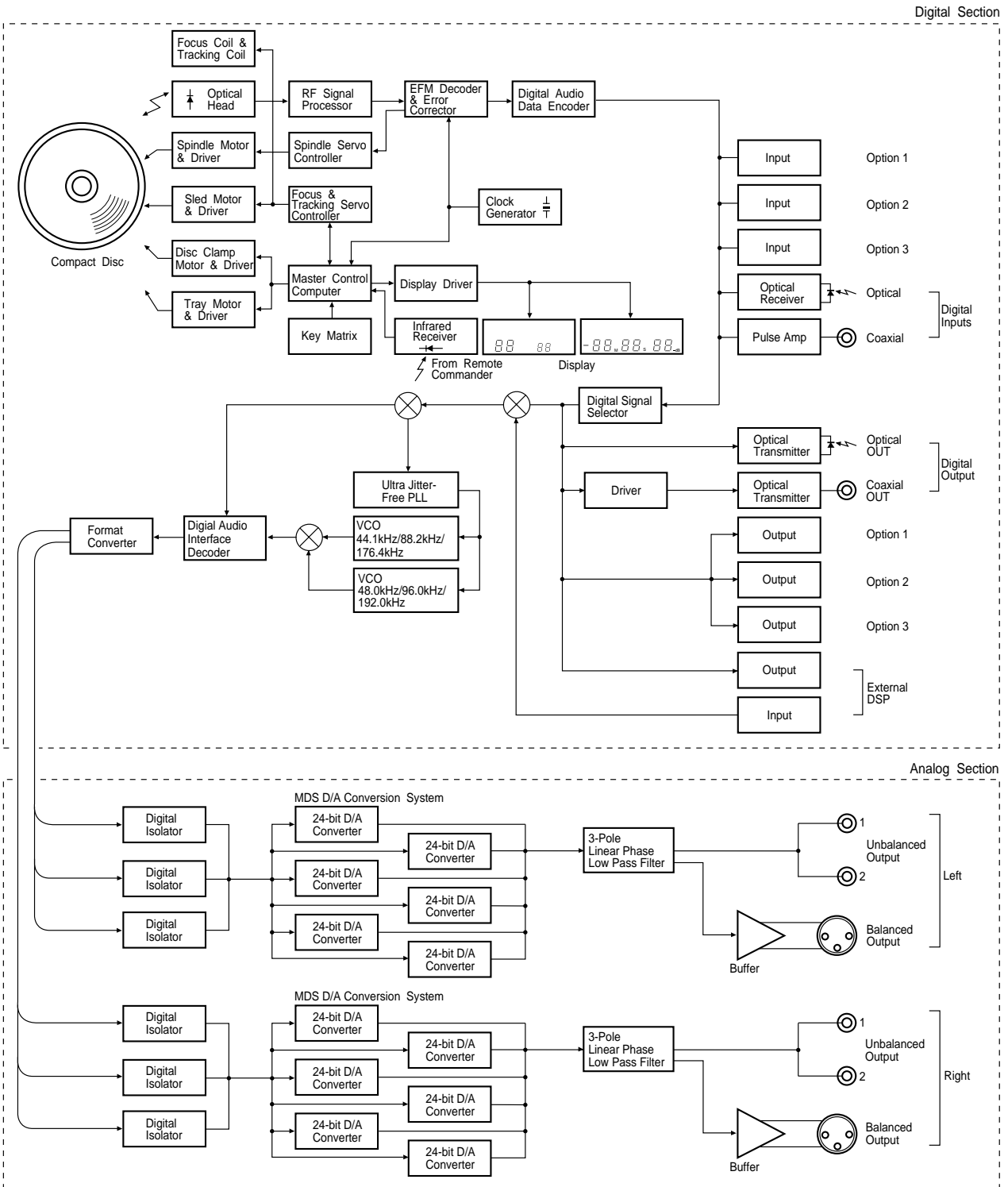


全高調波ひずみ率(雑音を含む) / 周波数特性



周波数特性

11. ブロック・ダイアグラム



12. 故障かな?と思われるときは

故障かな?と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。これらの処置をしても直らない場合には、当社品質保証部または当社製品取扱店にご連絡ください。

!注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切ってください。

電源が入らない(ディスプレイが点灯しない)	電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)
電源スイッチを入ると演奏が始まる	タイマー演奏に設定されている。(18ページ参照)
演奏が始まらない	ディスクが正常に装着されていますか。 低温時であれば、結露の可能性もあります。(4ページ参照) CDプレーヤー動作ですか。……CD/PROC ボタンを確認します。
音がでない。またはレベルが低い	出力コードが正しくアンプに接続されていますか。 アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。 本機のLEVELボタンで出力レベルを確認します。
音が途切れたり雑音が出る。 演奏途中でディスクが止まる	ディスクに反り、汚れ、傷はありませんか。 接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。 トスリンク光ファイバーはEIAJ規格品ですか。 (規格に適合しないものは正常な動作ができません)
片側から音が出ない	出力コードを左右入れ替えます。 同じ側から音がでない……アンプ側に原因が考えられます。 左右逆になる……本機に原因が考えられます。
リモート・コマンダーで操作できない	電池は入っていますか。 新しい電池に交換してみましょう。 受光部付近に障害物はありませんか。
外部接続機器の出力がない	プロセッサー動作ですか。……CD/PROC ボタンを確認します。 周波数ロックはされていますか。(19ページ参照)…… 光ファイバー、同軸などそれぞれ接続したケーブルをお確かめください。

13. アフターサービスについて

保証書

保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたします。

保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。

保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。

オプション・ボードやオプション・ユニットにはお客様カードは付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。

補修部品の保有期間は通産省指導により、製造終了後最低8年間となっています。

使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。

その他

改造されたものは修理ができない場合があります。

本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。

AC100V以外(海外)では使用できません。

保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

ご質問、ご相談は当社品質保証部または当社製品取扱店をお願いいたします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508
横浜市青葉区新石川2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX 045(901)8995

修理依頼の場合には

“故障かな?”と思われる場合には、をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

モデル名、シリアル番号	ご住所、氏名、電話番号
ご購入日、ご購入店	故障状況:できるだけ詳しく

梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2 - 14 - 10

〒225-8508 TEL(045)901-2771(代)